

令和5年度上牧町総合計画等外部検証委員会（第3回）会議録

【日 時】令和6年1月23日（火）9時30分～12時00分

【出席者】（50音順）

（委員：11名）

飯田委員、植村委員、大西委員、上村委員、呉羽委員、阪本委員、谷口委員、辻本委員、中山委員、村上委員、安中委員

（担当課：こども未来課3名、生き生き対策課3名、まちづくり推進課4名）

（事務局：総務部企画財政課）

中川部長、中本課長、土井課長補佐、高野主事、梅野主事

【欠席者】3名（鶴谷委員、濱田委員、東谷委員）

【傍聴人】0名

【議事概要】

1 開会

・11名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2 第2期上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

○こども未来課

【1-1-3. 地域ぐるみの子育て支援】

担当課：<「①情報交換拠点の充実」について説明>

担当課：<「②預かり保育事業の実施」について説明>

安中委員：全国的にネグレクトが増えてきており、家庭以外に一時でも預かり場所があることで救われている子どもたちが多いという話を聞いた。

担当課：何かあれば、すぐに関係機関と連携を図れるような体制はとっている。また先生から保護者にも伝えるようにしている。

安中委員：保護者によっては伝えるとすぐに転園させてしまうかたもおられると聞いているので、十分注意をしながら、子どもたちを守っていけるよう進めてもらいたい。

谷口委員：上牧幼稚園の預かり保育が16時までになっているが、今後時間を延長していく予定はあるか。16時までということで幼稚園を選択肢から外されているかたもおられる。

担当課：これまで幼稚園の預かり保育の時間延長についての要望はこちらに届いていなかった。将来的に認定こども園になれば、こういったことも解消されると思う。

辻本委員：町として、認定こども園の設置についての計画を教えてください。

担当課：認定こども園の計画については、少子化が進んでいることや幼稚園の園舎も古くなっていることから、計画的には進めていかないといけないとは考えているが、現時点で具体的なスケジュールは決まっていない。今後、委員会を立ち上げて進めていく必要があると行政側でも感じているところである。

村上委員：取組内容①の「サロンぽけっと」について、定員があるのか。取組内容②のKPI「預かり保育の延べ利用者数」は、延べ数になっているが、同じかたが何度も利用されることが多いか、幅広く多くのかたが利用されているか。

谷口委員：「サロンぽけっと」について、最近は1、2歳児の利用が増えており、リピーターのかたも多い。全体的な人数自体は増えてきているが、3歳以降は保育園等に行かれて来られなくなるケースが多い。

植村委員：「サロンぽけっと」では、1歳児、2歳児、3歳児とクラスをわけて、年間10回教室を開いている。1歳児の申込がすごく増えているが、人数制限は行っておらず、部屋を大きくして対応している。3歳児の申込が減ってきている。

これまでは、長年利用されていた保護者のかたが、子どもが中学生になった頃にスタッフとして戻ってきてくださることが多かった。最近は、育児休暇の間に利用されるかたが多く、その期間が終われば途切れてしまうため、長期利用されるかたが減っている。また、スタッフとして戻ってきてくださるかたも少なくなっている。

担当課：預かり保育については、延べ人数1,107人のうち、実利用人数が多い月で25名程度、少ない月で10名程度になっている。令和4年度5月時点で、対象者98名であり、4分の1程の利用があった。

委員長：取組内容②のKPIについては、人数で表すのであれば、「対前年度比」を変更した方がよいのではないか。

担当課：調整を行う。

【1-1-4.就学前児童への教育・保育カリキュラムの充実】

担当課：＜「①特色のある乳幼児教室の開催」について説明＞

特になし

【1-2-1.結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援】

担当課：＜「①出会い・結婚応援事業の実施」について説明＞

担当課：＜「②プレパパママ教室の開催」について説明＞

委員長：教室参加割合は、誰に対する割合か。

担当課：妊娠届を出されたかたを母数としている。

村上委員：つまり、母子手帳を発行したかたということか。プレパパママ教室は平日、休日のどちらに開催しているか。

担当課：その通りである。プレパパママ教室は、平日来られないかたもおられるので、土曜日に開催することもある。

【1-2-2.子育ての希望を叶えるための支援】

担当課：＜「①子育て世代への訪問型個別支援の拡充」について説明＞

担当課：＜「②子育て支援の充実」について説明＞

安中委員：現在、保健師等の専門職は何名おられるか。

担当課：助産師1名、保健師1名がこども未来課にいる。隣の生き生き対策課にも保健師が数名いる。

安中委員：助産師や保健師のかたに地域へ出向いてもらって、子育てサークル等でお話を聞かせてもらうような場をもつことは可能か。小さな子どもがたくさんおられるお母さんか

ら 2000 年会館まで行くのが大変だという声も聞いている。

担当課 : 時間の調整等は必要になってくると思うが、検討していきたい。赤ちゃん訪問については、こちらへ来るのが難しいということであれば、個別訪問の対応を行っているので、相談いただければと思う。

【4-1-2.子育てしながら安心して働ける環境の整備】

担当課 : <「①子育てと就労の両立支援」について説明>

委員長 : 取組の概要には病児病後児保育のことが書かれているが、実施内容には学童保育のことも書かれている。これが病児病後児保育とどのように関係しているか分からない。

担当課 : 2点の事業を行っているが、概要に放課後児童健全育成事業について記載漏れがあったので、修正する。

飯田委員 : 病児保育室について、急に利用が必要になることが多いと思うが、すぐに利用が可能なのか教えてほしい。

担当課 : 令和4年度は2カ所の病児保育室があり、「ぞうさんのおうち」は、その場で受診いただければすぐに預けることができるが、「いちごルーム」は医師の証明を持参していただく必要があるので、前日予約必須となっている。また、令和5年度から新設された保育室についても、その場で受診し、預けることが可能になっている。

飯田委員 : ニーズに対して、受入がいっぱいになって預けられないということはないか。

担当課 : 感染症が流行っていたりすると、部屋を分ける必要がでてくるため、お断りしないといけない場合も出てくる。

谷口委員 : 香芝市のどのあたりに開設されるか。

担当課 : 旭ヶ丘のかわしまクリニックがされている病児保育室「ぽっぽ」である。

委員長 : 学童保育の開設時間は何時から何時か。規模は、1単位何人としているか。

担当課 : これまでは朝8時から夜7時であったが、夏休みと土曜日は朝7時半からに時間を早め、延長した。小学校3校で行っており、定員は70名となっている。現在は、教室を2つに分けて、1教室40名を目途に受入をしている。

○生き活き対策課

【1-1-5.多様な学びの場における支援】

担当課 : <「①ほほ笑い教室の開催」について説明>

特になし

【1-2-1.結婚・妊娠・出産の希望を叶えるための支援】

担当課 : <「①不妊・不育症治療助成制度の周知・啓発」について説明>

特になし

【1-2-2.子育ての希望を叶えるための支援】

担当課 : <「①乳幼児健診受診の促進」について説明>

委員長 : KPIの数値が100%になっていないということは、受けていない子どもがおられるということだと思うが、そういった家庭への対応はどのようにされているか。

担当課 : 乳幼児健診については、毎日行っているわけではなく、該当月の前後で来ていただけるように健診の期間が法律で決まっているが、体調を崩したり、入院をしたりして、その期間に来ることができないかたがたまにおられ、検診に結びつかないことがある。ただ、そういったかたをそのまま放っておくわけではなく、電話訪問や家庭訪問をさせていただき、何らかの形で接触がとれるよう努力はしている。

委員長 : 統計的にみれば98%で頑張っていると感じるが、当該のこどもから見れば、0か100しかないので、できる限りに100%に近づける、もしくは期間中に難しい場合はフォローすることで、すべての子どもがこぼれないような対策をしていただけたらと思う。

担当課 : 引き続き、取り組んでいきたい。

○まちづくり推進課

【2-1-1.空き家活用プロジェクト】

担当課 : <「①空き家利活用の推進」について説明>

辻本委員 : 2年程前に空き家の調査されたと思うが、結果はどうだったか。その後は、調査されてるのか。今後も調査を続けていくのか。

担当課 : 2年前の調査では、町内に64件の空き家があることが確認できた。現在は、空き家の所有者のかたを把握し、今後の取組方針を考えているところである。現在の空き家の件数について、具体的な調査はできてないが、今後、現地確認や現地調査を含めて、新しい空き家の件数も明らかにしていこうと思っている。

辻本委員 : 64件のうちすべての所有者のかたと連絡がついたか。

担当課 : 所有者全員には、つけることができていない現状がある。所有者の情報としては登記簿謄本に載っている名前と住所になってくるため、それを基にダイレクトメールを送るが、そこで返事がなければ、ストップしてしまう。

辻本委員 : 全ての連絡先を調査しておかないと、近所から何らかの苦情が出てきたときにすぐに対応ができない。農業委員会にも協力してもらいながら、調査をしっかりと、連絡が取れるようにしていただきたい。

飯田委員 : 「現地調査3件を行いました、空き家バンク登録には至りませんでした。」とあるが、至らない理由としてはどういったものが多いか。

担当課 : 至らなかった理由については、賃貸で、ご自身がリフォームした空き家情報を登録したいと連絡いただいたが、空き家コンシェルジュから営利目的での登録はそぐわない部分があるという話があり、再度相談させていただいたところ、一般の不動産流通に乗られることになった。今回のように相談はあるものの、不動産流通に乗ることができるような物件については、最終的に不動産業者にお願いされるケースが多い。

安中委員 : 10数年前に火事でそのままになってる家屋が1件ある。町としては、どのように考えているか、聞かせていただきたい。

担当課 : 空き家の件数の中にカウントしており、年に1回所有者の方へ、空き家をどうしていくかを問うダイレクトメールを送っているが、返事がない。しかし、このまま放っておくわけにはいかないと思っているので、近縁者の方にもアプローチできないか探りながら、継続して対応していきたい。

- 委員長 : その建物は特定空き家には、なっていないか。
- 担当課 : なっていない。他の空き家よりは特定空き家に近い物件であるが、空き家対策協議会の方に上げる案件の中にまだ上がらない建物である。
- 委員長 : 法律も改正され、管理不全でも対応できるようになっているので、対応していただきたい。上牧町では空き家バンクを利活用の推進の中心にすると理解してよいか。
- 担当課 : その通りである。
- 委員長 : 先ほどもあったように一般的な流通に乗るのであれば、通常不動産業者にしてもらう方が民業の圧迫にもならず、よいと思う。空き家バンクは、特定の政策的な意図がある場合や通常の流通ではなかなか乗りにくい場合に活用していくことになるため、利活用を進めようと思うと、いろいろな障害が出てくる。例えば登記が十分できていない、接道が不十分、相続されてる複数の方の中で合意形成がとれていない等が挙げられる。空き家バンクだけではなかなか解消しにくい利活用の推進も施策として考えてはどうか。地域の空き家を何とかしてほしいという意見も多々出ているようなので、検討いただきたい。
- 辻本委員 : 空き家、空き地の固定資産税等の徴収はできているか。
- 担当課 : 税金の徴収をできていない空き家も何件かある。税務課と徴収課の方とも、情報共有を行いながら進めていきたい。
- 上村委員 : 国や県、上牧町で空き家の解体にあたる助成金等はあるか。
- 担当課 : 当町での解体の助成金については、現在検討している段階である。空き家は個人の財産であり、本来は処分についても個人の費用でまかなわれるべきというのが一つの考え方としてあるため、費用を出しにくい部分がある。また、どこまで費用を出せば後押しになるかという部分の根拠になるものが少ないため、実績のある市町村に話を伺い、精査した上で、当町としてできるかどうかを、今後検討しながら進めていきたい。
- 上村委員 : 例えば、期間限定で金額を決め、3年間助成しますといった形で、一度行ってみてはどうか。そこで、何件か申請があれば、コストの部分で悩んでいるという答えも見えてくると思う。いろいろなことをやってみて、ニーズを把握していけばよいと思う。
- 委員長 : 特定空き家になったものに解体費用の一部を助成するという形で行っているところが多い。固定資産税の滞納、所有者不明等となってくると、行政だけで対応するのはかなり難しい。司法書士会等と提携して、相続人が誰なのか突き止めていき、対応されている自治体もあるので、いろいろなかたの協力を得ながら進めていくのがよいと思う。

【2-2-1.公共交通の利便性向上】

担当課 : <「①上牧町地域公共交通会議の開催」について説明>

安中委員 : コミュニティバスについて、現在、年末の29日～31日は運休しているが、お正月の買い出し等で商業施設に行きたいかたから運行してほしいという声を聞いているので、検討してもらいたい。

大西委員 : 今後の取組方針で、他市町村の先進事例を収集するとあるが、他市町村では、どのような取

組をされているか教えていただきたい。

担当課 : 広陵町では、オンデマンドバス等、公共交通の取組を先進的に行われている。奈良交通が広陵町のニュータウンの路線を廃止されたという経緯があり、その部分の公共交通をどうするかということで、オンデマンドバスの実証実験等が行われ、現在運行に至っている。その辺りのことも含め、話を聞きに行かせていただこうと思っている。

大西委員: 奈良県のみならず、他府県でいろいろ取組をされていると思うので、参考にしてもらえたらと思う。

委員長 : 毎年この会議で、上牧町にとって公共交通をどうしていくかが極めて重要な課題ということで、常に委員の皆さんから意見をいただいているが、内部の検討会も開催できていない現状がある。残念ながらCという評価になっているが、他の課題よりも最優先させて取り組んでもよい課題だと思うので、評価がB、Aとなるように検討いただきたい。

担当課 : 昨年の10月に、福祉部局、総務部局で公共交通に関する意見交換会を実施した。今後は、奈良交通や町内タクシー会社にも意見をもらいながら、本町の公共交通の利便性を図れるものを構築できるように会議等を積極的に進めていかないといけないと考えている。また、服部記念病院や友誼会病院では送迎等もされているので、いろいろな機関とアイデアを出しながら、今後進めていきたい。

委員長 : 少し動き出しているということで、その動きをより活発化させていただきたい。全国的に自家用有償輸送に取り組む自治体もかなり増えてきている。タクシーやバスとの連携、コミュニティバスの活用等、地域の移動手段をどう確保していくのか、ぜひ、具体的に進めていただきたい。

【2-2-2. 関係人口・交流人口の創出】

担当課 : <「①観光プログラムの企画・周知・運営」について説明>

安中委員: 片岡城跡での事業が増え、認知度が高まってきた。訪れたかたに入口が分かりやすいよう看板の設置をお願いしているが、なかなか進んでいないように感じる。住民のかたもよく言われるが、何か相談したいときに、どこの課に、どのように言えばよいのかわかりづらい。

説明者 : 片岡城跡を管轄してる課は他にあるが、当課でも片岡城跡で事業を展開することがある。どこに、どのように問い合わせればよいかということについては、迷うところであると思うが、関係各課で情報共有を行い、担当課だけでなく、横の繋がりも意識しながら進めているところである。

安中委員: 地権者の承認が得られたと聞いてから半年以上経っているので、早急に進めてもらいたい。反省点として伝えておく。

事務局 : 片岡城跡の看板については、今年度予算を社会教育課の方で上げており、現在デザインや設置場所を精査している段階である。要望いただいてから、議会にお示しをし、予算化してから実施となるので、なかなかすぐにはできないが、担当課でも考えているので、少しお待ちいただきたい。

【3-1-2. 地域資源の整備】

担当課 : <「①かんまき笹ゆり回廊を活用したにぎわい創出事業」について説明>

上村委員： ささゆり回廊の自転車優先道路について、左岸側が自転車優先になっているが、わかりにくいという声をよく聞く。看板の位置等を再度確認してほしい。

担当課： 当課としても、各分岐点に看板や標識は立っているが、時間帯によっては自転車の通行量が多く、ウォーキングされているかたもおられるので、危険のないようにもう少しわかりやすく表示する必要があると考えている。路面へ標示する等よい方法を調査・研究して、設置できるように進めていきたい。

上村委員： 地面に色分けして塗装等できるとよいが、費用のこともあると思うので、よい方法を考えてみてほしい。

【4-2-1. 地域産業の活性化と担い手の育成】

担当課： <「①就農支援（担い手育成）と農産物の販路確保支援」について説明>

担当課： <「②地域資源を活用した商品開発と販路確保支援」について説明>

安中委員： 河合町はふるさと納税の返礼品の種類が豊富である。農産物もいろいろと出されているが、地の利等は本町もあまり変わらないと思う。また、農産物以外にも布団等もあり、調べてみると、製造河合町となっている。材料を仕入れ、町で製造するというのも1つの手だと思う。また、雇用にもつながると思うので、そういったところにも目を向けてもらいたい。

担当課： 当課では、農業委員会も設置しているので、その中で声掛けを行い、発掘してきた。珍しいものを作っておられる農家のかたも実際におられるので、ふるさと納税事業を実施している企画財政課と連携を図り、そういったかたともつなげていけたらと考えている。

辻本委員： 新規就農者の1名はどこの地区のかたか。

担当課： 南上牧のかた。今回農業に力を入れたいということで、一緒に県へヒアリングに行き、学校へ通われ、修了証を受け取られたので、新規就農という形で挙げている。農地の確保という部分で法律等が変わり、取得しやすくなっているので、そういったことも活用しながら農地を取得されていく意向は聞いている。この1名のかたもこれから出てこられるもかたもそういった形で、バックアップしていきたいと考えている。

辻本委員： 本町で現在、専業農家は1件だけか。

担当課： その通りである。

辻本委員： このままであれば、この1件だけで、増えることがないと思う。ほとんどのかたが定年を迎えてから農業をされているかたで、近隣でも同じような状況だと思うので、北葛城地域、香芝市等の広域で農業者をふやす方法を考えていってはどうか。このままでは高齢化し、耕作放棄地も増えていくと思うので、保持だけでもしていけるような取組を進めていってほしい。

【全体を通して】

委員長： 評価のつけ方について、前半のことも未来課や生き活き対策課は基本的に全てAになっているのに対し、後半のまちづくり推進課は、AがなくBとCだけになっている。評価の仕方が庁内で若干ばらついているのであれば、そろえるようにしてもよいのではないか。

事務局： 次回以降、評価のところについても、事前に確認をし、全ての事業において、一律の

評価ができるような形でお示しできたらと思うので、少し改善したい。

3 その他

・「上牧町まち・ひと・しごと再生モデル事業」についての報告

安中委員：片岡城址盛り上げ隊の活動で利用させてもらっているが、2000年会館まで鍵を返しに行くことを考えると、中に入ることはせず、多目的スペースの使用にとどまってしまっている。せめて、鍵を当日ではなく次の日に返せるように考えてほしい。

福祉課：鍵の貸借については、他からも意見をいただいている。特に下牧にお住まいのかたから、よい施設が近くにあるにも関わらず、2000年会館へ鍵を借りに行ってもまた返しに行くとなると利用しづらいと聞いている。今後、鍵のあり方について検討したい。

委員長：人手を省くためにデジタル化して番号で鍵を開けるなど、物理的な鍵がなくても施錠する方法はあると思うので、検討していただきたい。

福祉課：調査・研究を行う。

呉羽委員：昨年桜ヶ丘自治会が桜ヶ丘公民館の鍵の貸借を電子化して行っていると思うので参考にしてもらえればよいと思う。

委員長：可能であれば、資料の課題の部分に、鍵の貸借について補足していただければと思う。設定しているKPIでは、起業について重視されているが、現実的に考えると難しく、今後は、観光やボランティアのかたが使用する方にシフトしていきたいということか。

福祉課：そのように考えている。今後は、多世代の交流や観光の休憩スポットとして利用促進を図っていきたい。

飯田委員：今、活用状況が伸び悩んでいるということであるが、今後は誰にどういった方法でどういう場所で周知を行っていかうと考えているか。

委員長：まずは、庁内の事業で活用できるよう周知していきたい。また、社会福祉協議会と連携して、ボランティア連絡協議会に所属する団体に声掛けを行うなどして、活用を進めてもらえるよう進めていきたい。

飯田委員：会議等に使える場所が、これだけ整備されているということなので、普段庁舎に来ない若い世代にも活用してもらえるような周知の方法も考えてもらえたらよいと思う。

福祉課：関係各課と協議しながら進めていく中で、若い世代にも使っていただけるような方策も考えていければと思う。

安中委員：施設までの道のりが傾斜の高い坂道で、駐車場がないことも利用の妨げになっていると思う。車で直接上がることは難しいかもしれないが、どこかに駐車できる場所を確保してもらえると利用しやすくなる。近くに薬局等、大きな駐車場のあるお店もあるので、協力をお願いするのも1つの方法だと思う。

4 閉会

以上